

産業建設委員会

令和元年9月2日(月)
第3委員会室
全員協議会終了後
時分～時分

【委員】岡本委員長、串崎副委員長

三浦委員、川上委員、飛野委員、笹田委員、牛尾委員

【執行部】湯浅産業経済部長、佐々木産業経済部副部長(兼広島事務所長)、大驛商工労働課長
石田都市建設部長、三浦建設企画課長

【事務局】下間書記

議題

1. 所管事務調査事項について
2. 9月12日(木)の委員会審査日程等について
3. その他
4. 政策討論会を終えて【委員間で協議】

令和元年9月定例会議 産業建設委員会審査について

◆日時：令和元年9月12日(木) 10:00～ 場所：全員協議会室

【予定議題】

1. 議案第60号 浜田駅関連施設条例の一部を改正する条例について
2. 議案第63号 市道路線の廃止について(佐野新開線外)
3. 議案第64号 市道路線の認定について(浜田255号線外)
4. 請願審査
(1) 請願第8号 免税軽油制度の継続を求める意見書の提出を求める請願について
5. 陳情審査
(1) 陳情第111号 小福井市営住宅、雇用促進住宅の再整備についての陳情について
(2) 陳情第122号 開府400年事業の経済効果の算出を求める陳情について
(3) 陳情第123号 「お魚センター」案件の不明朗な点を明朗にすることを求める陳情について
(4) 陳情第124号 美又国民保養センターが労基法に適合しているかの調査を求める陳情について
(5) 陳情第125号 TEU、FEUを発表する意味の説明を求める陳情について
(6) 陳情第126号 基幹産業の定義を求める陳情について
6. 所管事務調査
7. 執行部報告事項
8. その他

【政策討論会 会議録抜粋 産業建設委員会分】

お魚センターを中心としたエリアの活性化について

～公の施設の管理運営方法のあり方を含む～（産業建設委員会提案）

(1) エリア全体の開発の方向性とその事業が不明瞭

○西田議員

・課題や原因はあるが、基本的にトータルして魚の水揚げ自体が減っていることに尽きる。あそこ全体のエリアを活性化するためにはJAや色んな団体が一緒になって浜田漁港エリアを活性化する。皆で一緒になって考えるしかない。先日の勉強会の話でもあったが、今ある地域資源がどれだけなのかをしっかりと見つめて、結局どれだけの魚種がどれだけの量が揚がっているか、それをどう生かすかを皆で考える必要がある。拡大・縮小についても地元の知識人、事業体、団体と一緒にとことん議論する必要がある。

○三浦議員

・この拡大・縮小は事業そのものよりはエリア開発をどれくらいやっていくのか、今後力を入れてやるなら拡大になる。西田議員がおっしゃったのは、例えばJAの協力も含めて、魚の価値をもっと高められるような何かをすとか、新しいアイデアを考えていく必要があるということだが、それは拡大に入る。もしくは、現状でもやっているがそれが十分でなければ、口の項目だと思う。拡大していこうとすると予算も必要だったり、手当をしていかないといけない。沖底の廃業にしてもリシップ事業に対してすごくお金をかけてやった、今後もリシップ事業に対して当時かけた3倍あるいは5倍かけていくことが今後の浜田市の水産業発展の施策として本当に良いのかどうか。水揚げ量が原因だと我々も思っている。揚げられる量に限界があるから揚げたものの価値をどう高めて、売上量をどれだけ増やしていくかという戦略と、リシップは少し違う話になってくる。そうした時にどこに力を入れて浜田市の水産業を発展的にさせるかといった時、船にかけるのか、違う所にかけていくのか、これは戦略である。拡大路線を図っていくなら、どういう部分に予算を投じるべきだろうかというのが、この設問の主旨だ。

○西田議員

・浜田にはあれだけ入り組んだ入江があって、尚且つマリン大橋も大きな資源。あの景観も活かせば人の流れができるかもしれない。トータル的にあの辺のエリアにもっと色んな知恵を出した方が良い。考え方としては拡大。今あるものを活かすのとことん考えて、これ以上出ないくらい知恵を絞って、皆で色んな話をとことんすれば良い。いつかは何等かの形が見えてくるのでは。

○岡本議員

・産業建設委員各々の委員は、ここにお示しした拡大か現状維持か縮小かについて各々意見を持っている。我々はこの場の皆の意見を吸い上げてそれを政策提言に反映したい。そのためにこの度の提言に意味がある。西田議員からは「拡大すべき」という意見をいただいたので参考にしたい。その他であればよろしくお願ひしたい。

○布施議員

・お魚センターを中心とした賑わいづくりは大事。全体のマネジメントできる方がいないのが一番の原因だと思っている。みなとオアシスの賑わい創出となると、全部知っている方がやらないと我々がいくら提言をしても実際に現場を知ってないとマネジメントできない。そのために地元の人を使うことも大事だが、全国には優秀な方がたくさんいるので、公募してでもグランドデザイン化、マネジメントできる方をまず雇って、現状維持も含めながら拡大していくのか、良い所を活かすのかを考えていった方が良い。将来を見据えてできる人を核としてやるべき。賑わい創出を考える上で、まず人材のあり方をどう考えているか、委員会の皆に聞いてみたい。

○牛尾議員

・我々の中で議論しているのはエリアをきちんとマネジメントできるような指定管理者を公募した時に、手が挙がるかどうかという点に非常に危機感を持っている。それが上手くいかなければこの事業は難しい。あそこの指定管理を受ける方は十分やっつけていける条件はあるが、全体をどう動かすかは能力がないと難しい。**手を挙げてもらう時に、議会側としてある程度の条件を出す、それは市が整備するかどうかも含めて皆の意見を聞きながら、条件を付した上で、指定管理者の範疇はこれくらいと決めながらやっていかないといけない。これは僕個人の意見なので、補足があれば言ってもらいたい。**要を握るのが、どこにいるか分からない指定管理業者だということは論点になると思う。

○布施議員

・キーマンになる指定管理者の考え方で大きく変わってくる。市民のための施設なのか、観光客のための施設なのか、色んな考え方があるだろうが、浜田市民からは「同じ魚でも高く売っている」という意見が出る。お魚センターを基幹産業とした場合、どういう業者がされても良い物を安く、魅力あるものに作っていかれるかどうかに限られる。そこをしっかりとやっつけていけばどこが指定管理になっても、直営であっても、民間と行政と一緒にやるPFIにしても、あまり変わらないと思う。根本をしっかりとすれば、昔ほどは無理だとしても賑わい創出は可能かと思う。牛尾議員が平素から言われている、**お魚センターに公共交通バスを走らせるといった大胆な考えも必要になってくるのでは。**

○牛尾議員

・公共交通は最低条件。循環バスがあそこに着くことは絶対に必要十分条件だ。それから魚を安く買えること。仲卸は今、多様な顧客ニーズに対応している。今までご心配いただいたようなことは、新しい所へ行けば全て仲卸が自分の商売のためにやっっていく。観光客も詳しい方なら皆仲買で魚を買っていた。今度は1ヶ所に集約されて、しかも割に安く提供できる。

○道下議員

・**国県から支援を引っ張ってこないは無理。**浜田市が考えた案を認めてもらってから予算を付けてもらうとか、船に対する諸々を見てもらう、これが大前提ではないか。もう1つ、船が入って賑やかになると魚業界自体が儲かる。やはり儲からないから後継者が立ち上がってこない。**生産者がきっちりして魚を獲ってくる、儲かっているというスタイルが基本。**その辺が話に出てこないように思うがいかがか。

○笹田議員

・生産者が儲からないのは色々理由がある。今後考えていくべきことは、漁業調整規則の改正。今のままでの漁業では衰退していく一方なので、大田のような一艘曳きを取り入れるとか、昔禁止していた刺し網を許可するとか変えていかないと、今のまま底曳きと巻き網だけでは厳しい。ただそれは、JFの問題とか生産者の問題、競りも大田は夕方競りだが浜田は夕方競りはない。そういったことも改正できるかどうかも含めて検討が必要。魚を獲るということは今と同じ形態でやっても駄目だという所まで来ている。生活できないので、一本釣り漁師でも兼業者ばかり。一次産業だけで食べていくのは相当厳しい状態にきている。これを市は、県は、JFはどうするかという問題になってくるかもしれない。ただ、今回はそういった問題ではなく、浜田市が買い取ったお魚センター周辺を含めた漁港エリアをどうするかが問題になっているので、魚が獲れるか獲れないかは、そういった改正も必要ではないかと思っている。

○道下議員

・**マネジメントする人は、全国どこから引っ張ってきてやってもらおう。**ある程度やってもらったらそういうところも、中には是非とも入れてもらいたい。一艘曳きの話が出たが、それをすると夜に競らないといけない。やはり第一次産業は国県の支援がないと絶対立ち行かない。それをどう訴えていくか、まさにこの産業建設委員会に

かかっている。

○牛尾議員

・マネジメントの話だが、今回の物件をばらして見ると仲卸は自分の商売をするだけだからマネジメントは要らない。商業棟もレストランが決まればあそこに一定の売上が発生するので、あとは加工屋がそこそこの売上を上げていたので、同業種の加工品が並ぶ点をどうクリアするかという問題くらいで。もう1つは商業棟と仲卸棟を合わせた全体エリアの売り出しをどうするかといった所にアイデアが要るのだろう。極論を言えば私が行ってやってもできるくらいの気持ちを持っている。だから指定管理者の公募もそれほど難しいことではないと個人的に思っている。

○澁谷議員

・一番の問題は、生産者に利益を獲得する仕組みができてないこと。浜田漁港には稼働してない船があまりにも多い印象がある。生産者が利益を出すためには、自分が獲ったものに自分で値段を付けて売る場所が必要。それが仲買や色んな中で中間マージンを取る方ばかりが繁栄する形だから、生産者がどんどん縮小していく。生産者が儲かる仕組みが絶対必要なのに、浜田は生産者第一主義になってないから衰退したと思っている。お魚センターについて一番心配しているのは、公設仲買売場を移転するが地元の人に魚を提供して観光客にも来てもらい、賑わいを演出するにはもっと大きなスペースが必要。それも参加した生産者の方が15%のマージン負担だけで、あとは全部自分のものになるとか、そういう分かりやすい費用負担の仕組みが一番必要で、そういう施設を作るべきではないか。船の稼働率を良くして生産者の方が利益を得て、後継者が育成される形にならない限りは、どんどん縮小していくだろう。

○牛尾議員

・漁師が値段を付ければ高く売れるのだというのは誤解。エリアについては、JFの店子だけでは難しいので、あの一体の賑わいを出すためには、民間のY水産があるしJAの力、朝市の力等を総合的に借りながら、賑わいを出すための議論をしていかねばならない。

○笹田議員

・漁師が直接売るのは、物によっては実際にやっている所もある。ワカメ等は自分で獲って販売している漁師もおられる。ただ、巻き網等の量が多い魚は個人販売が難しいため、あのような形になっている。以前、私もアワビを自分で販売していたこともあるが、やはり相手が欲しい時にないと自分の売りたい値段で売れない。将来的なことを考えると確かに割高でも売れるが、相手先に迷惑かけられないこともあって辞めてしまった。あと漁協の決まりで、漁師になるには登録が必要で準組合員・正組合員というのがあって、物売る際に販売手数料がかかる。浜田漁港に卸す際は6%、自分で卸す場合はもう少し安いけど、漁協を通さなくても何かしら手数料を支払わねばならないルールがある。明確に個人売買している人がどうなのかはJFも把握してないだろうし、漁師さんもそういったルールを知らないで申告してない場合もあると思うが、実際にはそういうルールがあるので個人的には販売していくのは難しいかと思う。ただ、先ほどのアカミズの例にあるように生計を立てるのが難しいという面も正直あるので、適正価格で販売できる何かを持ってないと食べていくのは難しい。

○澁谷議員

・魚はスーパーで買うと高いが市場でトロ箱一杯が何百円という世界もあったりする。昔の浜田ではアンコウは肝だけ探って捨てていたとか、そういう信じられないことも行われているくらい。トロ箱一杯は何百円だけどスーパーでは1パックが何百円になる。底曳きや巻き網で大漁の方は1つ1つやるには違った仕掛けを考えれば良い。要は今一番考えなければならないのは、今までの浜田の方式だとジリ貧になるという共通認識を皆が持つこと。境港のようにマグロやカニで隆盛を極める形になっていたはず。競りの時間1つ取ってみても、今までの浜田のやり方が問題だからジリ貧になっている。それはきちんと認識して変えていく、改革していかないと現状プラス

アルファ程度のことではジリ貧にならざるを得ないだろう。浜田は全国でも2、3番目に特三漁港になった。それくらい山陰沖以西底曳網というのは、戦後圧倒的な鮮度、品数、量だった。昔は長浜ですら10か続くらいいた。それが今のこの状態まで落ち込んでいるのは、今までと同じ方式では絶対駄目だという認識を持ってないから。だからただ議論しただけで終わるのではと思う。

○岡本議員

・認識についてお話があったが、我々委員会はこれについて十分論議し、課題としても思っている。仲買に対する家賃だけの形で安く売っておくれとか、そういうことを1つずつ解決する形で、我々も1つを提案として持っていこうと。認識は持っているのご承知おきいただきたい。

○牛尾委員

・澁谷議員のお祖父さんは底曳きをおやりになっていたの、先ほどの指摘はごもっともだと思っている。ただ最近はどうな魚もキロ単位で。クチビダイという、ちょっと前まではネコマタギという魚がいるが、その魚でさえ今は目方売り。1匹の魚さえどうやってブランド化で位置づけをして高く売るかという、大船渡の先進事例を見に行った。現状は、この魚がこんなにするのかというくらい、仲買も含めて一生懸命な売り方をしているし、生産者もその辺を随分読み込んで魚を頑張っている。アンコウも今は高いが全てキロ単価。昔はそういうことがあったと認識しているが、現状ではそういうご心配はないと思う。

○野藤議員

・方向性はこれで良いと思う。ただ、先ほど説明があった中で20ページに国の水産業の傾向がグラフ化されている。島根県のグラフ化されたものがないのが気になった。今後10年間、こういう方向性を出すのに具体的な原魚や地域の産業構造とかいったものがどうなるのかという視点も入れて、これを討議していただきたい。

○小川議員

・私がこれを見た段階では3つまでだと思った。エリアの賑わいを創出することと、水産業の振興と、もう1つは新たにできるお魚センターを前のように失敗させてはならない。この3つくらいある中でメインはどうしても新しくできるお魚センターの経営と運営を含めて、今までの失敗を繰り返さないためにどうするかという話の中で、5番のような関係も出てきたのだろう。初期投資の問題にも触れられたが、今の旧お魚センターも最初に少し投資しすぎたのではないかという話を聞いていたし、経営のやり方、投資方法にも問題があった。失敗原因についてはずっと分析されていると思う。新しいお魚センターをどうしても失敗させてはならないし、行政もスケジュールを立てながら進めているが、それに対して議会側もきちんと責任をもって関与して、あれは勝手に執行部が決めたのだからということではなく、今までの浜田の水産業を守っていく立場から議会としても責任を持って関わっていこうという形で、この提言が出せるのかなと思っている。できれば8ページに書かれている部分でそれぞれ意見を出せと言われたら、出るのではないかな。

○佐々木議員

・基本はやはり賑わい創出に関連するのだろうが、地元の方々が常日頃ここに買い物に行くことが基準となり、観光客や帰省客と一緒にいくという流れを作る、基幹産業の旗手という意味合いで、まず地元がここに行きたくなるような仕組みづくりが単純で一番の基準だと思う。まずはそこが賑わいの基準かと感じている。賑わい創出という中にそのような意味合いが表現できれば良い。

○柳楽議員

・住んでいる人たちがこの施設をどのように思われるかはすごく大きい。私もそれほどお魚センターを利用したことはないが、できた頃は2階のレストランで食事されるのもすごく美味しかったと。新鮮な魚介類がたくさん

乗っていたという話を聞いた。魚も安かったと。すごく勢いがあると思っていたが、だんだん魚価が高い、レストランの食事もあり良くなかったという話がどんどん広がって、悪い口コミが現状を招くことになり影響したと思っている。やはり住んでいる皆が、あの施設はすごく良い施設だと言われるような状況を作らないと、また同じことになるのではとすごく心配している。②にそういう辺りが入ってくるのかなとは思いますが、その部分も少し分かりやすく入れていただくと良いのかなと思う。

○布施議員

・皆さんの意見は大事。1番から5番まで積み上げていけばお魚センターを核とした販わり創出ができるのか、反対に考えた時に、お魚センターを核とした販わり創出をするためにこの5つが大事なのだという考え方なのか。1から5までやればいいのか。まだ細部にわたってたくさんの意見が出たが、それらを1つの課題テーマとして付け加える必要があるのではと思った。結果は一緒だと思うが見方を変えるとテーマが1つ2つ増えたりすると思う。最終的には基幹産業である浜田漁港を中心として、イベントの際にしか見かけないような若い人たちが普段から利用できるような、浜田へ来たら加工品だけでなく鮮魚を都会に送ってみようという言葉が出るようなものを作っていくべき。是非検討項目をもう1つ加えて議論していただきたい。

(2) 公共施設にかかる管理運営の手法が固定化

川神議長

・今回、委員会から提言が出されたもう1点の、公共施設にかかる管理運営の手法が固定化というのがあったが、確かに今回の提案の中にお魚センターも含めて運営をどうするかは、公共施設全般にわたってとても大きな課題なので、これ1本で何かをやりようと思えば物を言わねばならないくらいの大問題。たまたま今回はそういうことも要素に入っているということで挙げられたと思うが、それに対しては意見が出ていない。恐らく切り離すこともないのだろうが、切り離さないといけなくらい大きな問題なので、ここで敢えてもっと議論するかどうかはまた考える必要がある。それも含めて皆からご意見があるか。

○澁谷議員

・民間企業の経営で一番気を付けねばならないのは初期の過大設備投資。良い時に限って過大な設備投資をしやすいため、それで資金繰りがショートしていく。行政の場合は色んな仕掛けがあってPFIになった場合には初期投資が平準化していくこともあるし、過疎債もあるし辺地債もあるし、その負担が。仕掛けとしては色々な手法があって補助金を引っ張ってくれば良い。その時に事業と併せて本体の財政状況はどうかということにおいて、やり方が変わってくるのでは。今の浜田市の財政状況も加えて議論しなければならないので、相当読み込んで参加しないと議論にならず好きなことを言って終わりになると思う。

○岡本議員

・我々産業建設委員会とこの6月定例会のやり取りの中で、仲買売場がお魚センターに行くという位置づけの条例提案があった。執行部からは指定管理制度に出すとしているが、我々委員からは、こういう形では事業者の自由度がなくやる気も起きないのではないかという観点から、PPPやPFIを提案している。執行部は、条例を議決いただいたが、お魚センターの施設については今後自由度を持ったものにしたいと回答してくれている。我々は皆から意見を聞いてしっかり提言したい。

○佐々木議員

・民間ノウハウや資金を活用するPPP、PFIの取組みについて一番興味を持って読み込んだ。今回は仲買市場の移転ということで、あまり自由度を利かせるのも難しい施設なのかという印象。確かに可能性として、ある

いは先ほど議論があったマネジメントの意味合いからしても、公民連携の取組みは非常に考える余地がある。具体的な知恵までは今は浮かばないが、2年くらい前に総務で紫波町のPPPの取組みも見てきた経緯もある。この辺は広く検討していただきたい。

○三浦議員

・この公民連携の話は、新しいお魚センター部分だけの話ではなく、市内に現存する公共施設、あるいは今後計画されている子育て支援センターの建設等、今後にも今の公共施設の上にもかなり広く関わってくる大事な話だと個人的に思っている。そうすると指定管理やこうした部分の所管委員会はどうなるのか。今回は産業建設委員会の提案として上げる時に、この公共施設にかかる管理運営の手法は、ひょっとすると総務文教委員会の所管ではないかという話もあった。ただ、今回のお魚センターの話の流れの中で、問題意識として一度こういう所に出して課題意識を共通認識として持つのは大事なのではないかとということで、ここに2つ目の提案として出そうと。これは共通認識だったと思うので、今後議論を深めていく時に、ここだけでやってしまうとお魚センターの議論に終始してしまうので、今後の議論をどこの委員会で扱うともう少し深堀するために、取扱いについては全体的に取り上げていただきたいという希望を持っている。

○佐々木議員

・広く考えられていて感心した。とりあえず漁港エリアをどうするかで言うと、今回の提案のようなことが考えられる1つの手法かと感じる。市が今進めている漁港エリア検討委員会よりは、はるかな可能性を持った取り組みだとは思っているので、これを議会提案としてやるのも事業に対する1つの大きな提言になると思った。

○笹田議員

・子育て支援センターもそうだし。指定管理だけでなく他に良い管理があったら条例を書き換えてもやるという意見をいただいているので、全体で考える時が来たのではないかと。また浜田市には途中で辞められた指定管理者も多くおられる。それも課題認識として議員も持たないといけない。公共施設管理の仕方は別々に決められるようになるべきだ。全部が指定管理ではなく、地域でないと管理できない所もある。そういうことも含め考えていかないといけない認識を持っている。果たしてうちの委員会でやるべきか、総務でやるべきかという問題はあがるが、議員全体の課題認識として公共施設のあり方を再度考える時期にきたと感じる。

○三浦議員

・配布させていただいている資料の8ページに「課題設定と理由」として5項目あって、これは委員会としての提言の骨子みたいなものになっているはず。したがって皆の意見を踏まえると、例えばエリア全体をカバーしてその事業の連動性を持たせる事業の最適化を図るべきだという方向性については了承を得たのか、地域HACCPのことも出たが、どんちっち三魚以外の相対的なブランディングを図って水産業の振興を図るべきだ、今後取り巻く環境が色々変わっていく中でエリア開発を、しっかり海に関わる事業の推進を図っていくのだ。5番は議長からも切り分けて考えた方が良いのではという話があったが、事業整備については最適な公民連携の形をきちんと考えられる仕組みを作るべきだ、みたいな共通認識が図られて、今後も委員会でこの方向性で提言の議論を深めていって良い物かどうかは確認しておきたい。

○川神議長

・これは全ての議員がどのような感覚で見ているか分からないが、私自身は皆の話を聞いていて、具体的に委員会提案で全体で周知を図ってこの形で提言しようという所まではまだいっていないと感じた。皆がどのように感じているのだが、ただこの問題は今までの議案も含めたり、様々な市民の関心度、私個人的にも周辺施設の充実なくしては厳しいと思っている。その中でこの問題は議会としてきちんと進めていくべきと私も認識している。今回の提言に対して、それぞれの項目についてどの程度まで皆が腹入れして、このまま進めていって良いかということに関しては、私個人の感情だけではいけないので皆から意見があれば。

○澁谷議員

・委員会で議論してもらうのが一番大事なので、それが提言に繋がるかどうかは二の次。議論すれば良い。現状では担当委員会から提言らしい提言は出てないので、良い悪いの話までいかない。ただの項目だから。とにかく議論していただきたい。それで良かったら出せば良い。

○三浦議員

・だから議論するテーマについて骨子を我々委員会の中から5つ出している。確かに議論が深まっていないという所はあるが、足りない視点があれば5つの骨子に限らず新しく付け加えたり、他の視点をもって深掘りしていくためのご意見をいただくのがこういう場だと私は思っている。確かに熱度は高いものではないかもしれないが、示したポイントについてどうなのかというご意見はいただきたい。

○川神議長

・三浦議員からお話があった。これは私の役割。5番は今回の事にも関わると大変大きな問題なので、これは少し切り離して、ある意味改めて議員間討論くらいするべき問題だろうと思っている。1番から4番に関して皆から、これは問題だというのか、もしくはこれ以外の視点が足りないというご意見があればお願いしたい。

討論会終了あいさつ

○川神議長

・この件に関しては、委員会からも改めて意見を求められたが、概ねお魚センターを中心としたエリア活性化についてきちんとした提言を行うべきだ、基本的にはいくらか修正はあると思うが方向性は委員会から出されたものを更に細部にわたって追加も含めて、議論をしっかりと欲しいと私も感じている。

これをそのまま上げるのではなく、出た意見をしっかりと持ち帰っていただき最終的には産業建設委員会の中で再度ご検討いただき、できれば何等かの良い形で提言ができれば良い。

まず今日の話委員会内でしっかりと揉んでいただきたい。改めてだが、5番の公共施設の管理の問題は全国的に色んな施設が色んな管理方法をとって失敗・成功が起きている。

浜田の施設がどうあるべきかは、施設の方式も議員が腹入れした上で各々が案件に対してどうしていくか、一度勉強会でも開かなければいけないと思っている。その際にはよろしく願います。

余談だが先般、特三の全国議長会に行った時に水産庁から色んな公演があった。牛尾議員から色んな意見が出たが、最近では水産庁も単に港の問題のみならず物流問題、まちづくり問題、つまり港を抱える都市のまちづくりの形成に関して水産庁もいくらか予算を持っているということで、港だけを考えるのではなくその周辺道路、物流といったものを一体化したまちづくりを考えていかれたらどうか、という水産庁からの話も事例もある。まさにこの件はそういった時流に乗っていくものだと思っているので、委員会の議論には期待する。

○田畑副議長

・今回初めて三常任委員会の政策討論会をさせていただいた。

議論不足の所もあるようではあるし、角度を変えて意見交換をしなければいけない部分もあると思う。

当初の計画では9月末までに各常任委員会で政策提言をしていただく、それをもって議長から市長に、できるだけ早い時期が良いがその予定に間に合うように準備していただきたい。

今後についてはまた議長とも相談しなければいけないが、1回ないし2回はこういった討論会を要する気がする。また議長と相談した上で各常任委員長にご連絡する。今後ともよろしく願います。